

## 無事雪中で越冬した

### 野積の燐硝安加里

青森県農協中央会  
経営指導部

長谷川辰男

青森県の農協は、どこでも倉庫不足に頭を痛めている。

これは古米の持越量の増加がおもな原因だが、りんご地帯では更にりんごの集積倉庫不足が、これに拍車をかける形になっており、このため県下では、44年だけでも43棟の倉庫が約9億800万円もかけて新設された。

この倉庫不足を一時的に解決するために、普通の資材倉庫等を転用するケースが目立っているが、その結果、逆に資材倉庫不足となって現われるという始末である。

そこで考え出されたのが肥料の野積みである。

浪岡農協でも、古米やりんご用に資材倉庫を転用した結果、肥料倉庫が不足するようになったので、昨年10月経済連と肥料メーカーの協力のもとに400トンの肥料を野積みした訳だ。

野積みした肥料は、高度化成を中心としたものであるが、特に燐硝安加里は慎重に取扱う必要があるので、今回が初めての試験であった。

2米に及ぶ雪の試練を経て、半年ぶりの4月14日に野積みを解いて、その品質等を調査した。

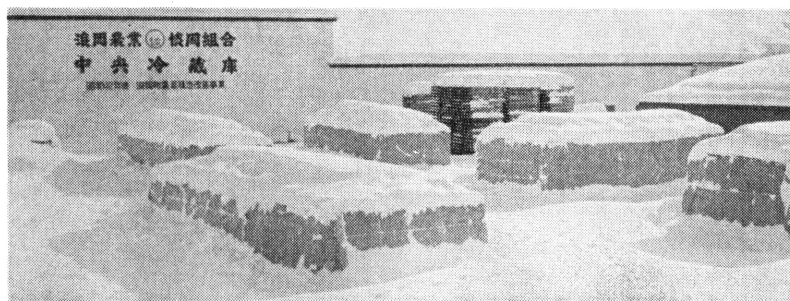
結果は、肥料の品質はもちろん、包装等も何んら異状なく良好であった。当日、この調査に立合いのため来られたチッソ旭肥料(株)の伊藤常務以下関係の方々には、ホッと安堵の色を見せ、われわれも思わず顔をほころばせた。

野積み成功したのは、その保管管理(基礎基盤の整備、野ネズミ対策など)の適正ということだが、最大の原因であろうと、他の地区における野積みとを比較検討した結果確認され、今後野積みする場合には肥料をできるだけいねいに取扱うことをポイントとして指導することが、何より大

切であるとの結論に達した。

青森県では、さっそく県経済連の広報に取上げ、十分普及できるものとし、当面の米生産調整による余剰肥料の保管、或は早取りも、倉庫不足と関係なしにでき、さらにこれが、肥料メーカーの生産合理化として、肥料価格引下げの一助となれば一と、並々ならぬ期待が寄せられている。

費用等については、別項の野積みの概要を参照されたいが、100トン当り初年度で約6万円(シート(2年使用可能)2枚4万円、その他資材費、人件費2万円)、2年度において約2万円と、初



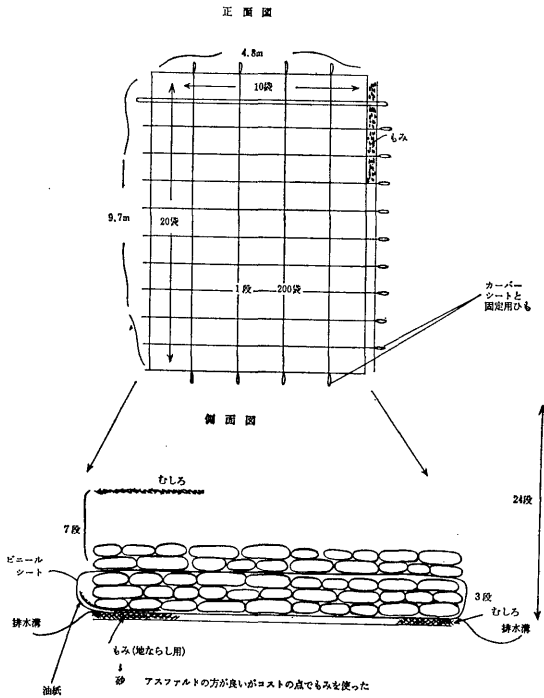
燐硝安加里を野積した現場(浪岡農協で)

年度においても、1袋当り12円と、早取り保管料で充分採算がとれるので、将来は全国的なこの種の保管が普及するのではないかとみられ、野積みの肥料の上に降る雪は、冬の青森の風物詩になるのではないかとさえ云われている。

#### 野積み試験の概要

- ・試験場所 青森県南津軽郡浪岡町、浪岡農協内
- ・野積み月日 44年10月8日午前8時30分～午後3時30分
- ・目的 ①倉庫不足の解消、②予約注文の徹底、③配達の一括化
- ・試験の概要 試験袋一燐硝安加里E 951(16—8—10)りんご用100ト(5,000袋)  
肥料の野積みは、倉庫が満ぱいとき、メーカーが一時的に野積みをしたのが始まりで、これに最初手がけたのは新潟県である。(新潟県では新潟硫酸の指導で、AN系肥料を、農家の庭先保管を実施したが、固結、吸温等の問題は起っていない。)1昨年、青森県経済連でもAN肥料の野積み試験を実施したが、紙袋でも問題はなかったそうである。

しかしNSKの試験は全く始めてである。



44年10月から45年4月上旬までの積雪中の越冬, しかも吸湿しやすいNN系肥料であるので, 45年4月上旬シートをはずすまで結果は判明しない。そこでシートをはずすときには立会う必要があった訳だ。

• 野積み方法

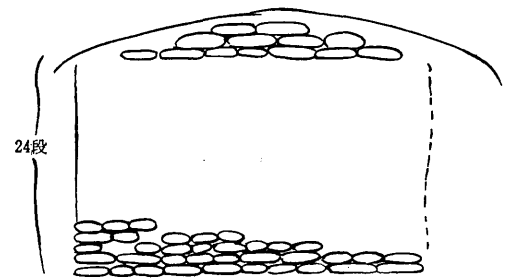
- ① 5cm程度土を掘り下げる。(前もって計算した面積)
- ② 地ならしのため, もみを敷く。(この場合, 砂またはアスファルトの方が望ましい。)
- ③ 野積み場所の四方に, 浅く排水溝を掘る。
- ④ カバーシートの固定用ひもを, 前もって設置しておく。
- ⑤ もみで地ならしした上にむしろを1枚敷く
- ⑥ ビニールシートを敷く。
- ⑦ その上から油紙を敷く。
- ⑧ 肥料袋を3段(600袋)積み重ね, ビニールシートで覆う。
- ⑨ その上から21段肥料袋を積み, 最後の1段で山形に屋根とする。中間(7段目)にむしろを敷く。

⑩ カバーシートをかけ, 前もって設置した固定用ひもかけて固定する。

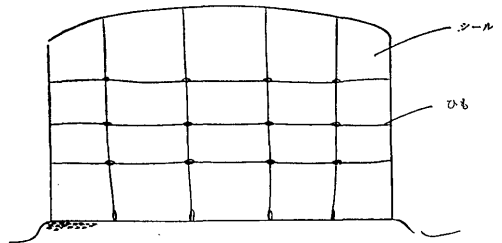
• 必要経費(100トン)

- ① 基礎作り経費 3万円
- ② 日当積みおろし ¥1,000/D → 15人/D → ¥15,000/D
- ③ シート代その他 約2万円
- ④ 野積み経費計 6.5万円

残200袋で山型を作る。



でき上り側面図



• 問題点

- ① 今後, 農閑期の人手の問題があるので8月中旬~9月上旬に野積み作業を実施したい。そのため野積み期間は9月上旬~翌年4月上旬の7ヶ月に渡るので, この間の貯蔵に堪え得るかどうか
- ② 作業はコンベヤの使用を検討したいとのことである。
- ③ NSK袋の縦幅は, 他の肥料袋より1cm程度長いので, できれば他のメーカーのものと同じにしたい。(野積み面積に誤差を生ずるので)
- ④ NSK袋は44年10月富士工場で生産したものであるが, シール不良, 破袋, 固形などの問題はなかった。